

鼓ヶ浦 (つづみがうら)

鈴鹿市立鼓ヶ浦中学校

TEL:386-5852 FAX:386-4663

<http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/jhtsudumigaura/>

めざす学校像

「来てよかった、
明日も来たい」
と思う学校

2学期 始業式にあたって

42日間の夏休みが終わりました。今年は例年になく早い梅雨明けでしたが、夏休みに入って二度目の梅雨かのような雨の多い不安定な日が続きました。また、市内の小学生が亡くなるという痛ましい海の事故もありました。本校においては、大きな事故がなかった事は大変良かったと思いますし、生徒のみなさんは、1学期に理解が不十分であった学習内容を復習するなど、有意義な休みにしてくれたことと思います。

いよいよ今日から2学期がスタートします。1学期終業式で、「2学期の始業式には全員が元気に集まってほしい」と話しましたが、国内では3年ぶりに行動制限のない夏休みとなった反動もあるのか、第7波といわれる新型コロナウイルス感染症の急拡大は昨年以上の厳しさを見せています。全員が顔をそろえて2学期のスタートをすることができず残念ではありますが、これまで通り感染防止対策を徹底し、出来る限り学校が通常通り行えるよう力を合わせていきましょう。

2学期は、学校生活の中で一番長い学期です。文化祭などの行事もあり、一年のうちで最も学校が活気づくときであり、みなさん一人ひとりが大きく成長する時期でもあります。コロナ禍に負けることなく明るく活気にあふれた2学期にしましょう。

この2学期、1年生は学校生活にも慣れ、授業の内容も徐々に難しくなります。2年生は、3年生から伝承した部活動や学校・学年行事を通して自分たちで考えることを学び、3年生は最後の行事に学校の中心として取り組み、自分の進路を切り拓く時期でもあります。まだまだ残暑は続くと思いますが、気持ちと体を切り替え、学校や学級、個人の目標が達成できるよう、ひたむきに日々の努力を惜しまないで過ごしてほしいと願っています。

保護者の皆様へお願い

- マスク着用、手洗いの励行、換気、毎日の検温、食事、十分な睡眠など基本的な感染防止対策を引き続きお願いします。また、所用で外出する際には、「不要不急の寄り道はしない」「密な場所は避ける」などのご指導もお願いします。
- 子どもさんに発熱等風邪症状がある場合は、自宅での休養を徹底してください。また、同居のご家族に同様の症状がみられる場合も登校を控えるようご協力ください。
- 子どもさんが登校後、体調不良を訴えた場合は、原則、早退の対応をします。携帯番号や職場の番号など、必ず連絡のつく連絡先をお知らせください。
- 子どもさんが新型コロナウイルス感染症の陽性判定を受けたり、濃厚接触者となったりした場合は、学校への連絡をお願いします。

令和4年度 鈴鹿市こども議会

8月17日（水）鈴鹿市役所において、令和4年度「鈴鹿市こども議会」が開催されました。子ども議会は、市内40の小中学校より代表者が集まり、市長様、教育長様、市議会議員様、行政の各担当者様にお越しいただいて、各校が考えた“鈴鹿市をより良い街にする”提案を聞いていただき、答弁をいただく会議です。

鈴鹿市の環境、教育、医療・福祉、安心・安全、文化・スポーツ、地域づくり、産業、多文化共生など様々な分野において子ども目線で考えた提案がなされました。単なる思い付きや感想ではなく、調査・研究に基づいた根拠ある提案がされていることに驚き、感心しました。本校からは、3年生の中西優奈さんが参加し、「共生社会の実現」というテーマで発表・提案をしました。落ちついて、わかりやすく堂々とした立派な発表でした。



避難訓練 ～大震災への対応～

9月1日は、「防災の日」です。そして、この日を含む一週間を「防災週間」として防災訓練などが全国的に実施されるのです。なぜ、この時期に定められたかということ、1923年9月1日に発生した関東大震災にちなんだものです。また、この時期は、台風のシーズンとも重なっていて、地震、台風、豪雨、洪水、津波、等の災害についての認識を深めるとともに、これらに対する備えを行うことで、災害の未然防止と被害の軽減を図るというねらいがあります。

また、今年で東日本大震災から11年となります。東日本大震災で「釜石の奇跡」と言われた宮城県釜石市立釜石小学校の元校長、渡邊真龍先生は、次のように話されています。

『巨大な津波に襲われても釜石小学校と釜石中学校の在校児童・生徒の99.8%が助かったので「釜石の奇跡」と呼ばれたのですが、それはすでに下校して学校以外にもいた子どもたちが、それぞれの判断で逃げ、友達、お年寄り、みんなを高台に導いたからです。日ごろの徹底した防災教育で、子どもたち自身がその場で判断し行動に移すという心が育まれていたことが大きな要因だと言えます。』

釜石小学校は、津波の発生に対する対応で、「津波てんでんこ」という言葉で、子どもの行動を促しました。津波が発生したら、どこにいても自分の判断でとにかく高い所に避難する、という意味です。本校生徒には、何を伝えるべきでしょうか。

東海・東南海地震の発生が確実といわれていますが、今後生徒たちには、さまざまな状況下で発生する地震の可能性や、その時の対応方法、連絡手段がなくなった時の行動、家族との約束の徹底等を、日ごろから想像力をたくましくして考えさせることが必要だと思います。

本校でも、本日、避難訓練を実施しました。あの3.11の日に何が起こったかをもう一度思い起こし、地震が発生してもパニックを起こさず、冷静に避難行動ができるよう訓練を重ねていきたいと考えています。

ご家庭でも、いざという場合のお話し合いをぜひともお願いしたいと思います。